

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年最初のFMD News をお届けいたします。
本年も変わらぬお引き立ての程よろしく申し上げますと
ともに皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



1月のTOPICS

facebook



ω -3系多価不飽和脂肪酸は動脈硬化リスク患者の血管内皮機能障害を改善することは知られていますが、多くの文献から得られたレビューが発表されましたのでご紹介いたします。

■ ω -3系多価不飽和脂肪酸はアテローム性動脈硬化リスク患者の内皮機能を改善するが、特にEPA+DHAの組合せは効果的

現在までに疫学研究や臨床研究にて ω -3系多価不飽和脂肪酸(n-3 PUFAs)が血管内皮機能の改善を介してアテローム性動脈硬化症を予防できることが示されています。内皮機能障害は、血管拡張の減少および炎症性の前血栓形成状態を特徴とし、アテローム性動脈硬化症の発生における初期の病理学的事象です。

内皮機能障害を評価するためのゴールドスタンダードである血流依存性血管拡張反応(FMD)は、将来の心血管イベントおよび冠動脈心疾患リスクの予測因子です。内皮機能障害の危険因子には、脂質異常、糖尿病、高血圧、高BMI、喫煙およびメタボリックシンドロームといった古典的なアテローム性動脈硬化症の危険因子が含まれています。

本稿では、これらのアテローム性動脈硬化症の危険因子別に内皮機能障害を改善するためのn-3PUFAsの効果を検討し、n-3PUFAサプリメントの中で最も血管保護作用があるものを特定することを目的とし、エイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)、または α -リノレン酸(ALA)単独、またはEPA+DHAを用いて調査しました。

結果として脂質異常症、高BMI、メタボリックシンドローム、喫煙者を対象とした17件の研究中16件の研究にてn-3 PUFAsが内皮機能障害を改善しました。しかし、糖尿病患者を対象とした研究では5件中2件のみの改善に留まりました。薬剤別の評価では特にEPA+DHAの使用が内皮機能障害を改善することが示されました。ALAが豊富な食事は有望視されていますが、EPAまたはDHA単独の使用はさらなる検討が必要なようです。

今回の解析では、脂質異常症、高BMI、メタボリックシンドローム、喫煙者において血管保護効果が最も高いのはEPA+DHAの組合せでした。

引用元: Prostaglandins and Other Lipid Mediators 2017

■ 日本総合健診医学会第46回大会のご案内

ランチョンセミナー

今後の健診に“血管内皮機能”を測定することの意義

座長：東京医科大学 山科 章先生 日時：1月27日(土) 12:10~13:10
演者：広島大学 東 幸仁先生 会場：ウインクあいち 8階 第7会場

学会機器展示

機器展示も行っております。
皆様のご来場をお待ちしております。

1月26日(金)、27日(土)
ウインクあいち 6階